OTEMON GAKUIN UNIVERSITY

学院志研究室 News Letter 第12号

News Letter of Research Center for the History of Otemon Gakuin

刊行された追手門学院130年志

目次

『130年志』の企画・構成、そして完成まで …… 2
移管資料の紹介 …… 3
主な活動 …… 4
2020年度 室員・調査員 …… 4
編集後記 …… 4

『130年志』の企画・構成、そして完成まで

現代未聞 追手門
130年の伝統を革新の力に

齊藤　一誠

（国際教養学部教授、学院志研究室室員、
『130年志』企画・構成担当）

『改革の10年/追手門学院130年志』は、周年の当該年である2018年の刊行を目指して2016年春から編集作業が開始されましたが、実際には周年期間が終了する2020年の春、3月20日の上梓となりました。編集作業の難航が遅れの原因ですが、そのことによって、結果的に創立130周年記念行事の様子をすべて巻頭に写真で収めることができたのは、奇貨とすべきでしょう。

先の周年で発表された「追手門ビジョン120」を掲げて歩んできた学院の日々を、“改革の10年”という視点で記録することが主な編集方針となりましたので、その本文を充実させつつ、同時に“130年の歴史”とどのように均衡させるか、というところが、企画・構成の課題でした。

本文に課せられた「改革の10年」というテーマは、ともすれば自画自賛的な言辞を誘いがちです。そこで、記述にあたっては、まず日本社会の動向を教育の観点から概観し、その変化を予見して生まれた学院の改革構想を明らかにし、その枠組みの中にさまざまな改革の実績を位置づけることによって、記述の客観性を保つことにしました。

年表については、真に信頼すべき母年表というものが無いという現状に照らし、まずこれまで様々な機会に公刊されてきた学院関連の年表記述をすべて一元的にデータベース化しました。その上で重複・異同の整理や事実確認を繰り返しながら、母年表制作の基礎となりうるものをつくる、という方針で校訂作業を進め、歴史的な写真も各所に添えました。

加えて、130年の歴史を通観するための新たな試みとして、いくつかのトピックを立ててそれぞれの歴史情報を整理し、見開きのグラフィックとしてヴィジュアルに表現したHisto-Graphicsを制作して、本文の章間に配置しました。

さらに、大阪城ホールでの記念式典（2018年）、新キャンパスの開設（2019年）からそれに続く新教育の展開まで、「130年の伝統を革新の力に」変える周年記念事業全体の流れを、Hop・Step・Jumpという構成でヴィジュアルに記録し、Photo Documentaryとして年志の巻頭に据えました。

またサプライズとして、年志のカバーに“仕掛け”を施し、取り外して大きく開くと、そのまま1年365日、追手門学院130年の歴史の中からその日その日の出来事を抽出して記したポスター状のカレンダーとなるようにしました。

編年体で記録する「年代記」の体裁をとらず、むしろ歴史(Geschichte)という言葉が含意する“物語ること”に重点を置いた『改革の10年/追手門学院130年志』の姿は、新たに始まる学院の革新（Innovation）とその契機となる「企投（Entwurf）」の現れです。この小さな冊子が、編集作業の所産である史料データベースや発見された新資料と共に、学院志研究の進展に資する新たな礎石となることを希っています。

『改革の10年/追手門学院130年志』は、電子図書館サービス「LibrariE」にて電子書籍でお読みいただくことができます。右のQRコードからアクセスください。

移管資料の紹介

令和2(2020)年3月に、追手門学院小学校より、大阪偕行社附属小学校の文集など貴重な学院の資料を学院志研究室の資料室へ一部移管しました。移管された資料は、調査・整理を終えたのち、大切に保管するとともに、自校教育などの場で活用します。

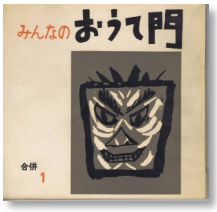
大阪偕行社附属小学校

『偕行の園』は、教員の研究と児童の作文や習字をまとめた文集で、第二次世界大戦の最中に発刊され続け、昭和19(1944)年4月5日発行の第6号をもって終刊しました。戦時中の偕行社附属小学校の教育を知るうえで極めて重要な資料です。

追手門学院小学部

『しろかげ(城かげ)』は児童の作文をまとめた文集で昭和25(1950)年度から刊行、『芽』は児童の研究発表を中心にまとめた文集で昭和26(1951)年度から刊行がはじまりました。

『城かげ』『芽』は昭和33(1958)年度より『みんなの追手門』として合冊され、現在も刊行が続いています。



追手門学院小学校

最新刊

追手門学院小学部

追手門学院小学校

最新刊

『追手門』は教員の研究発表の場として、昭和24(1949)年度に発刊され、現在も刊行が続いています。

《学内の皆さまへ》

学院志研究室の資料室の目録はGaroon共有文書「記念資料室簡易目録」として学内公開しています。
資料の貸し出しを希望される場合はコラボフローー「資料出納願」をご利用ください。

主な活動　（2019年10月～2020年6月）

2019年

10月　2日	第3回室員会議（将軍山会館2階会議室）
18日	追手門UI論の受講生が将軍山会館を見学
21日	学院志研究室News Letter第11号を発行
11月　6日	第4回室員会議（将軍山会館2階会議室）
18日	学内限定で資料室簡易目録を配信、資料出納願を電子化
12月　2日	将軍山会館にクリスマスツリーを飾りつけ
18日	第5回室員会議（将軍山会館地下1階会議室）

2020年

1月　17日	追手門学院幼稚園創立50周年記念企画展の会期終了
24日	将軍山会館にて大学構内出土遺物を学外研究者2名が見学
2月　19日	第6回室員会議（将軍山会館地下1階会議室）
3月　20日	『130年志』の刊行
4月　10日	スタッフのテレワークを開始
6月　11日	学生SJによるテレワークを開始

2020年度　室員・調査員

室　長　藤吉 圭二　（社会学部教授）
室　員　齊藤 一誠　（国際教養学部教授）
瀧端 真理子（心理学部教授）
住谷 研　（学長室）
小倉 久美子（学長室）
調査員　横井 貞弘　（元大手前中高教諭）
武田 昌一　（近畿大学元教授）
吉田 浩幸　（校友会副会長兼結成50年記念事業実行委員長）

室　員（学舎協力者）
柏原 祥代　（追手門学院幼稚園）
竹下 貴　（追手門学院小学校）
西浦 誠　（追手門学院大手前中・高等学校）
谷川 譲二　（追手門学院中・高等学校）

編集後記

ニューズレター第12号をお届けします。他大学と同様、本学も3月の卒業式、4月の入学式が中止となり、当初は4月いっぱいとも言われていた遠隔授業が春学期いっぱいに延長され、キャンパスでは学生の姿を見ない閑散とした状態が続いています。将軍山会館では4月から学生交換制度日印50周年、日豪40周年を記念する企画展を予定していましたが、こうした事情により開催を9月に変更して準備しています。どうしても気分が下がり気味になりがちではありますが、そのようななか、昨年度末に『改革の10年/追手門学院130年志』が刊行されました。そのとりまとめ役として4年近くにわたり尽力された齊藤一誠教授に、編集のご苦労も含めて語っていただきました。また卒業生、関係者の方々だけでなく、他学舎からの貴重資料の移管も地道に進んでいます。晴れてそうした品々をご披露できる日の近からんことを楽しみにしつつ、みなさまの健康と安全を念じています。

（藤吉 圭二）

追手門学院大学　学院志研究室　News Letter　第12号

2020年7月３１日発行

お問い合わせ先

〒567-8502　大阪府茨木市西安威2-1-15　archives-g@otemon.ac.jp

資料室 072-665-5062（内線4405）　将軍山会館 072-641-7693（内線3801）

バックナンバーはホームページでダウンロードしていただけます

学院志研究室は2020年4月をもちまして学長室におかれることになりました